

# 掛川城プロジェクションマッピング

～高校生×地域貢献×ICT～

静岡県立掛川西高等学校プロジェクションマッピング実行委員会 顧問 吉川 牧人

キーワード：高校、地域貢献、プロジェクションマッピング

## 実践の概要

新学習指導要領にうたわれる「社会に開かれた教育」や「主体的な学び」のような新しい学力観。本校生徒たちがこれを体現し、自主的にムーブメントを起こした高校生による地域活性化活動、「掛川城でプロジェクションマッピング！」をご紹介したい。

### 1. 目的・目標

#### (1) ICTの課外活動での活用

授業内でタブレット端末を使ったり、教育系オンラインツールなどを導入・活用してICT教育を積極的に進めている教育機関は多い。一方で、授業外で効果的にICTを活用できる事例はまだ多くなく、教育関係者の悩みの種の一つである。そのような中、課外活動で積極的にデジタルツールを導入し、地元の象徴である掛川城を使って、高校生による地域活性化を行いたい。

#### (2) 主体的な学びの実践

新学習指導要領は明治以来の教育の大改革といわれている。特に「社会に開かれた教育」や「主体的な学び」「対話的な学び」、「深い学び」などが注目されているが、どのように実践していいの不安を感じる学校も多い。このようなポイントを実践する活動を行いたい。

## 2. 実践内容

### 2.1 “生徒の自主的な取り組み”から派生

平成29年4月、1クラス2人の生徒からなるICT



写真1 プロジェクションマッピングの作成

係を発足させた。活動の目的はICT機器の授業でのセッティングのフォローと、生徒目線のICT整備の要望を出すこと。平成29年8月、ICT係と希望の生徒に、ICT講習会を実施。講師は外部の専門家。事前のアンケートで多かった、「iPadを使用したプロジェクションマッピング」と「ドローンプログラミング」を実施した。その結果、生徒の中から本校の真横に位置し、地元の象徴である掛川城でプロジェクションマッピングを行いたい、という要望が上がった。（主体的な学び）

### 2.2 “地域に開かれた教育”

企画案を生徒がつくり商工会議所や市役所に相談に行ったところ、第三セクター



写真2 地域の諸機関との会議

で掛川市のイベントを盛り上げている「かけがわ街づくり株式会社」を紹介していただいた。街づくり会社を通して、掛川市役所、掛川城管理事務所、広告代理店などと一堂に会して運営をすすめることができるようになった。地元のITベンダーと市役所の紹介で、プロジェクターを扱う企業を紹介していただき、企画の賛同によりプロジェクターの無償支援が実現した。また前述の外部の専門団体と一年間の無償提携をし、プロジェクションマッピングの技術的支援を得ることができるようになった。（社会に開かれた教育）

### 2.3 具体的な実践内容

有志が集まったプロジェクションマッピング実行委員20名で行った。

①どのように制作したか？…外部の専門団体とタイアップ。生徒は7名程度ずつに企画、制作、広報に分かれて活動。街づくり会社等との打ち合わせや、各種団体との折衝は生徒自身が行った。（主体的な学び、深い学び）遠距離での指導になるため「Slack」「Zoom」などのツ



写真3 映像のための絵コンテの作成

ルを使って指導を受けたり、作成を行ったりした。「Slack」とはチャットツールであり、チャンネルと呼ばれるスレッドごとにチャットができることが特徴。実行委員、顧問である教員、外部の大人が各自のスマホやタブレット、PCなどで参加し、企画、広報、制作などのグループに分かれながら、情報を共有した。学校にいなくても、どこにいても、情報、画像、動画などが共有できた。専門団体が遠距離からの指導であったため、「Zoom」というツールを使い、オンラインミーティングを行って、指導を受けたり、ミーティングを行ったりした。プロジェクションマッピングの中心的なツールは、iOSの基本アプリである「Keynote」である。「Keynote」は基本機能であるアニメーションなどの機能を使い、作成した。ストーリーは手書きの絵コンテ（アナログ）を作り、手書きの影絵などを作り（アナログ）、スマホで画像を取り込む（デジタル）。取り込んだ画像を「Keynote」のアニメーションやマジックムーブなどのトランジションで動かした。（対話的な学び）

②どのように発信したか？…日頃批判されているSNSを積極的に活用。「Facebook」でイベントページを作成し、「Twitter」と「Instagram」で活動の報告、学校公式「Youtube」チャンネルを作り、予告動画や会場までの道順動画をアップした（デジタル）。また「ペライチ」というツールを使い、HPを作成し、告知。その一方で高齢の同窓会には手書きの葉書を送ったり、生徒デザインのチラシを掛川市内3万世帯に折り込みチラシとして配布。事前にリハーサルを行い、新聞に取材してもらって事前告知を行った。（アナログ）

③当日の様子…12月23日の当日は、狭い天守閣広場に1000人を越えるお客様が来場した。評判も上々で、高校生が手作りの内容（掛川城の歴史や、掛川市を紹介）で

自らの地域を自主的に活性化させようとしたことが、来場者の大きな感動を呼ぶことができた。

## 3. 成果

クラスでは大人しく目立たない存在の生徒たちが、地域の大人たちと交わり、ともにイベントを作ることで大きく成長した。自分たちのアイデアが大きな形で実現することで、自己肯定感を増し、自信をもつことができたように思われる。また教員側も、閉鎖的な学校から、地域に開かれた学校を実現でき、地域活性化や生徒の成長の場に立ち会えたことが大きな刺激となった。



写真4 プロジェクターの設置

## 4. 今後に向けて

生徒自身で活動を振り返り、その意義を自分たちで定義し、マスコミなどに発信した。地元のテレビ局、全国誌「MacFan」に特集された。ウェブサイト「Find! アクティブラーナー」、「高校生新聞」「しずおかEジャーナル」（静岡県教育委員会広報紙）、「広報かけがわ」などに発信し採用された。また「しずおか学生動画アワード」に、活動をまとめた動画を応募し、大学生や高専生をおしのけ大賞を取ることができた。生徒も関わった大人たちも、自分たちの思い付きから始まったイベントが、地域に大きく貢献することができ、またその意義を社会的に評価されたことにとってもうれしく思った。



写真5 プロジェクションマッピングの作成

この活動は、平成30年度も継続されている。平成30年度は、生徒のプレゼンにより掛川市の市民協働事業に採択され市全体のイベントとして発展させることができた。また本校以外の市内高校や近郊大学の参加、クラウドファンディングや企業協賛による資金集めの成功、掛川城外の会場の拡大、と更なるイベントの発展を実現している。